

2 0 2 0 年 度

(令和2年度)

事業計画

学校法人 京都橘学園

2020 年度事業計画

京都橘学園は、長期ビジョン（2019～2026）および実行プラン（2019～2022）で構成する「第2次マスタープラン」の取り組みを進めます。

第2次マスタープランでは、第1次マスタープランからの課題を引継ぎつつ、本学園を取り巻く環境や現在の到達点と課題を踏まえ、プラン全体を再検討し、総合学園としての教育保育の充実や規模拡大、就職進学実績の向上、研究支援、地域連携・貢献などの方向性を策定します。

長期ビジョンの実現に向けて、2022年度までの目標数値を含めて定め、実行プランを具体化します。そして、年度ごとに計画と実施と振り返りを積み重ねながら目標を達成します。

京都橘大学においては、現在の6学部13学科に加えて、総合大学としてのさらなる発展をめざした社会科学系、工学系教育の拡充を計画します。

京都橘中学校・高等学校では、生徒数1,200人規模の学校を実現し、文武両道の学校教育をめざします。

開園3年目を迎えるたちばな大路こども園においては、教育保育の質を高める取り組みを強化します。

1. 京都橘大学

(1) 教育活動の推進

- ・全学においては、教育の質保証を推進するための施策として、学生の自己省察を促す履修指導體制の構築と運用、体験型学修プログラムを核としたキャリア教育の構築と運用を計画します。また、2021年度からの1コマ100分授業の導入にあたり、教育方法の改善にむけた取り組みをすすめます。
- ・文学部においては、2017年度から始動した文学部改革が完成年度目を迎えます。2020年度は、引き続き充実した体験型学習プログラムを計画し、キャリアに強い人材の育成をめざします。また、2017文学部改革の到達と課題を確認し、2021年度以降の教育課程の充実策を検討します。
- ・国際英語学部においては、完成年度を迎えるにあたり、SAP（Study Abroad Program）および帰国後の学びを更に充実させ、高度な英語運用能力とグローバルコミュニケーション能力を持つグローバル化に対応した人材の育成をめざします。また、これまでの教育活動の総括を行い、2021年度から運用が開始される新たなカリキュラムの運用準備を行います。
- ・発達教育学部においては、教職・保育職への就職目標として公立幼保教諭および公立小学校教諭の合格率70%をめざし、児童教育学科と教職保育職支援室との連携強化により全国トップレベルの質を持つ教職・保育職養成をめざします。
- ・現代ビジネス学部においては、将来の学部学科再編成を視野に入れ、社会科学系教育の中でも充実した体験学習プログラムを計画し、就職実績においても結果を残せる人材の育成をめざします。
- ・2021年度開設予定の経済学部、経営学部、工学部の開設準備を計画どおり進めます。
- ・看護学部においては、2020年3月に京都橘大学シミュレーション・コモンズ(略称 Citrus SIMCO/シトラス・シムコ)を整備し、シミュレーション教育の本格導入を順次図ります。また、厚生労働省が進める地域包括ケアシステムの整備にも対応し、2019年度からの新カリキュラムにより、地域連携の強化に向けた教育プログラムを進めます。
- ・健康科学部においては、心理学科と医療系4学科の教育連携を進め、人々の心身の健康課題に向きあえる医療職養成をめざします。個別課題では、心理学科で2021年度からのキャリア教育の充実を図る準備を行います。また、臨床検査学科では、細胞検査士資格認定試験受験資格が付与できる課程が認定されたのを受け、2021年度本格開講に向け準備を進めます。
- ・心理学科通信教育課程においては、国家資格公認心理師取得をめざす学生を支援しつつ、広く社会人が仕事や家庭、地域活動などの場面で活用できる心理学の知識、スキルが身につく教育課程を展開します。

- ・大学院においては、2020年度から看護学研究科に新たにクリティカルケア看護および小児看護のCNS2課程を設置し、さらに充実した教育研究を展開します。また、健康科学研究科健康科学専攻修士課程を改組し、2021年度に博士課程(博士前期課程・博士後期課程)を設置します。

(2) 研究活動の推進

- ・教学の特色と特徴を活かした研究の推進をめざし、総合研究センターの学際的研究プロジェクト「レジリエンス・プロジェクト」を継続して推進します。
- ・学部学科の特色を生かした地域課題研究においては、京都市および滋賀県などの自治体、企業、他研究機関との連携による研究活動を推進し、研究成果を地域に還元します。
- ・科学研究費等の外部資金獲得に積極的に取り組むと共に、研究倫理教育および研究不正防止教育にも積極的に取り組みます。
- ・2021年度の3学部開設を見据え、新たな研究領域における活動を推進します。

(3) 学生支援活動の推進

- ・強化クラブ活動においては、各クラブの目標(サッカー部は1部リーグ昇格、女子バレーボール部はリーグ戦優勝および全日本インカレベスト4、弓道部はリーグ戦優勝および全国大会出場、吹奏楽部は関西吹奏楽コンクール金賞および京都府代表)を達成できるよう重点的に支援します。また、各強化クラブにおいて、地域に根付いた活動や学内での活動を行い、学生自主活動の活性化を促進します。
- ・一般のクラブ・サークル活動においても、集団で活動する経験が社会生活で必要となる力として生きるよう活動支援を充実します。
- ・学生への奨学金および経済支援においては、2020年度からはじまる高等教育の修学支援新制度を適切に運用します。その上で、日本学生支援機構の奨学金活用を中心としつつ、大学独自の経済援助給付奨学金を運用します。
- ・障害学生支援に係る体制を整備します。学生相談室の充実を図り、修学困難を抱える学生との面談を増やすとともに、アドバイザー、教務部および学生部間の連携を強化します。
- ・正課内外における学生のボランティア活動を支援し、学生の主体性を育てます。

(4) 就職支援活動の推進

- ・キャリアガイダンス、各種講座やセミナー、個人面談を通して、学生一人ひとりに就活実践力がつくよう支援します。
- ・低回生からの就業意識醸成と社会人基礎力の育成をめざし、社会との関わりの中で学生の意欲や主体性がより発揮できるインターンシッププログラムを計画推進します。
- ・U・Iターン就職協定連携府県市との関係強化を一層進め、地方企業に対する本学の存在周知をさらに拡大します。
- ・医療系学科と事務局が連携して、国家試験合格率100%に向けた国家試験対策を強化します。
- ・公安系公務員への就職支援を強化すると共に、人文、社会科学系学科の公務員試験支援対策も強化します。

(5) 地域連携の推進

- ・京都橘大学産学公地域連携推進機構のもと、「産学公連携懇話会」や「たちばなネットワーク会議」を開催し、京都産業界との連携活動を強化します。
- ・京滋地区の「地(知)の拠点」となるための促進事業を展開し、地域連携活動を強化します。
- ・公開講座を旺盛に展開し、大学の教育研究成果を社会に発信します。

- ・大学コンソーシアム京都のプラットフォーム事業に参画し、京都に根づいた大学として、地域社会、行政および産業界との連携を促進し、地域の発展と活性化や学術研究成果の地域と産業社会への還元を図りつつ、高等教育の発展と社会をリードする人材の育成をめざします。

(6) 学生募集および広報活動の推進

- ・京都の私立総合大学としてのブランドイメージの確立をめざした広報を展開します。また、大学の日常ニュースも配信し、ステークホルダーが親しみを持てる大学づくりをめざします。
- ・学生募集活動においては、国際から人文、教育、社会、医療系まで幅広い分野にわたる京都橘大学の教育研究実績を丁寧に広報し、大学全体のブランド力向上を図ります。
- ・2021年度3学部開設の情報を早期から丁寧に周知し、初年度入試の円滑な志願者確保を目指します。
- ・2020年度入試の状況を分析し、高大接続改革へ対応した将来的な入試制度設計を検討します。

(7) キャンパス整備の推進

- ・地域の安全安心に貢献する開かれた次期キャンパス施設設備の整備を計画します。
- ・教育研究およびサークル、課外活動の充実に向けた施設設備の整備を計画します。
- ・学生数増加に対応した交通アクセスの整備を計画します。

2. 京都橘中学校・高等学校

(1) 文武両道の学校づくりと社会に貢献する人材の育成

- ・生徒たちが学業およびクラブ活動に励み、それらを計画的に進められるよう TM 手帳や Classi を活用した学習指導・進路指導を行い、進学実績の向上とクラブ活動の活性化を図ります。
- ・学校カウンセラーの配置、学校医等による定期検診、インフルエンザ予防ワクチン接種の校内実施などにより、生徒の心身両面での安心安全を図り、満足度の高い学校生活を実現します。
- ・生徒指導部を中心に生徒の規範意識向上に向けた指導を推進し、落ち着いた校風を安定して発展させます。また、地域からの生徒指導要望への的確な対応、生徒憲章の浸透、安心安全な学校づくりなどを進めます。
- ・授業アンケートの実施と分析、校長による授業見学、外部教育機関実施の各種教育研究セミナー・進路指導セミナーへの参加、学校主催の教育研究集会の開催など、教員の教育力・進路指導力とチーム力の向上を図ります。
- ・学習指導要領の改訂スケジュールに基づき、中高のカリキュラム編成を適切に検討するとともに現行コースの改編も含め検討する。

(2) 進学実績で生徒募集域でのトップ 50 に入る高校の実現

- ・通常授業の充実を図るとともに、実施2年目となる ASTM(After School Tachibana Method)の取り組みをさらに発展させ、進学実績目標を達成します。
- ・2020年度に行われる入試(2021年度入試)から思考力・判断力・表現力を一層重視する「大学入学共通テスト」が導入されます。また、推薦入試では、小論文、プレゼンテーション、主体性等を評価するための面接を導入するなど、より多面的な方法による選抜が増加しています。このような入試に対応するための対策講座の実施や最新の情報を提供するための様々なガイダンスを実施します。
- ・模試分析会を実施し、最新の模試データを活用した進路指導や分析結果に基づいたタイムリーな学力向上施策を実施します。
- ・新高校1年生・中学1年生全員にタブレット端末を導入し、授業や放課後・家庭学習及び日々の学びや活動の記録等のe-ポートフォリオへの蓄積などICTを活用した新しい教育の形を構築していきます。
- ・校内の自習環境の整備を進め、SL(Self Learning)やTM(Time Management)の取り組みを継続し、自学自習力

のさらなる向上を目指します。

- ・特進系のコースの学力向上だけでなく、すべてのコース生徒の学力を向上させ、公募推薦・一般入試における合格者数増を目指すことで、進学実績の向上を図ります。
- ・特別進学(E)コース、総合進学(A)、中高一貫(V1)コースにおいて、京都橘大学への内部推薦および指定校推薦の積極的な活用により、進学実績の向上を図ります。
- ・京都橘大学への内部進学者数を安定して増やす取り組みを進めます。

(3) 日本一を目指すクラブの育成等

- ・全国大会に出場する機会の多い5つのクラブについて、日本一になるための支援を引き続き行います。
- ・併せて、既存クラブのさらなる活性化を進めます。
- ・クラブの活性化に寄与するため第2グラウンドの整備を行います。

(4) 募集力の強化と安定的な経営基盤の構築

- ・学校説明会や「ドリーム☆スクール」などの志望者を学校に呼び寄せる企画や地域還元事業により、本校の認知度向上、志望者増を図ります。
- ・塾訪問活動の強化、全教員による中学校訪問の継続、外部での本校主催学校説明会の開催、学校案内、ホームページ、新聞広告などの有効活用を図り、本校の認知度向上、志望者増を図ります。
- ・学力の高い志願者獲得のための中高の特別奨学生制度、中学校の自己推薦型のプレミアム入試・適性検査型入試、高等学校の後期入試を継続します。
- ・進学実績を高めるとともに特別奨学金を適切に運用し、国公立進学(S)コースへの志願者を増加させます。
- ・塾や関連機関からの情報を的確に分析し、生徒募集情勢の分析とその対応策を検討します。
- ・中学校Vコース開校10周年を機として、中学校の到達点をアピールし、本校の認知度向上、志望者増を図ります。

(5) 伏見桃山の地で安定した学校づくり

- ・現キャンパスの長寿命化および魅力化計画を策定し、実行します。
- ・1200人規模の学校を安定的に維持するために普通教室増および既存建物の改修を行います。

3. たちばな大路こども園

(1) 安定した教育保育の提供

- ・「自立・共生」の教育保育理念のもとに、質の高い教育保育の提供をめざします。
- ・園庭の天然芝、緑あふれる丘の園舎で、園児が自然に触れ、生き生きと過ごせる教育保育環境を整えます。
- ・日々のコミュニケーションを通じて、保護者とも連携し、家庭と園が一体となって子どもたちの発達を保障するこども園をめざします。

(2) こども園職員の資質能力の向上

- ・京都橘大学教員を講師に招き、特色ある質の高い職員研修を実施し、職員の資質能力の向上をめざします。
- ・こども園職員を外部研修に参加させ、さらなる資質能力の向上をめざします。

(3) 子育て支援事業の実施

- ・地域に根ざしたこども園をめざします。子育て支援事業として、未就園児を対象に園庭開放や親子体験教室、一時預かり保育事業を実施します。

4. 京都橘学園

(1) 学園のブランド力の強化

- ・第2次マスタープラン（2019-2026）」を実行に移し、総合学園としての教育保育の充実や規模拡大、就職進学実績の向上、研究支援、地域連携貢献などを推進します。
- ・学園ブランド力を強化するため、2019年度に立ち上げたリブランディング・プロジェクトを引き続き推進します。新タグラインの下、学園の新たなイメージを学内外へ浸透させる事業を計画します。

(2) 事務局整備、職員育成の推進

- ・2021年度に現在の6学部13学科から8学部15学科へと大学教学組織の規模が拡大することに対応するため、大学事務組織を再編します。また、事務局体制強化のため、職員採用を行うとともに職員の成長を推進するための研修を計画します。

(3) 学園施設の拡充

- ・学園の体育施設の整備を計画します。

(4) 京都橘高等学校と京都橘大学との連携強化

- ・学園の総合的な発展のために、中学、高等学校、大学間の教学連携を強化し、高校から大学への内部進学を質量共に充実させます。

(5) たちばな大路こども園と京都橘大学との連携強化

- ・たちばな大路こども園に学園職員としてこども園事務室長を配置します。また、学園の強みを活かし、大学との連携を組み込んだ保育幼児教育事業をこども園で展開します。

以上